て、古代世界の売春に関する研究が注目されている。本書の原著は一九九五年の出版だが、こうした動向からも本書の価値を再確認することができるだろう。さらに、本書は女性史に留まらない広がりをも有しており、女性の境遇の変遷や役割を、男性という要素と共に考察することで、バランスの取れた両性の関係史を描いている。本書は一般の読者を想定したものだが、今後この分野を学ぼうとする者にとって、必読の書になると言える。訳者による的確な訳注も、初学者にとって大いに助けとなるであろう。

（新書判　一六七＋ⅲ頁　二〇一六年五月
白水社　税別二二〇〇円）

（小山田真帆　京都大学大学院文学研究科修士課程）

Isabella Lazzarini,
Communication and Conflict: Italian Diplomacy in the Early Renaissance, 1350-1520

一五世紀イタリアは、大使の駐在化と外交組織の恒常化を特徴とする「近代的外交」の起源として考えられ、イタリアで培われた「外交技術」が、ヨーロッパ各国に広まったとされる。ところが近年、公権力や統治者が派遣した大使や仲介者が、中央集権化していく都市国家において果たした政治的・文化的役割が評価されるようになる。このような流れにおいて、ルネサンス期外交を専門とする著者I・ラッザリーニは、従来は別々に分析されてきた、交渉、情報収集、代理、コミュニケーションといった実践に焦点を当て外交を捉えることを試みた。彼女は、都市国家が領域国家を形成し半島がモザイク状の政治的権力主体によって構成されていった時期を、長いQuattrocento（一三五〇～一五二〇）として分析を進めた。

本書は、全一二章によって構成されるが、その章立てもイタリア半島内外の都市・地域の事例が交差するユニークなものと言える。第一部「枠組み」では、外国勢力も巻き込む複雑な勢力図（第一章）や外交を担う主体の多様性とそれが形式化していく過程（第二章）、外交実践の中で作成される書簡や歴史文学、覚書の持つ史料的価値（第三章）が検証される。次に第二部「政治的行動としての外交」では、情報（第四章）、交渉（第五章）、コミュニケーション（第六章）が取り上げられ、外交交渉におけるツールや戦略としての情報の役割などが考察される。ここでは、権力や資源、司法権をめぐる紛争を調停・解決に導く、共有された政治的言葉の機能が着目される。さらに第三部「実践としての外交」では、スキルや素養を持った外交の主体（第七章）が行う儀礼やその選任・任命（第八章）、外交が行われる場（第九章）が取り上げられる。最後に、第四部「政治的言葉と文化的プロセスとしての外交」では、口述・筆記といったコミュニケーションの形態（第十章）、感情と理性のバランス（第一一章）、交渉における言葉や語彙（第一二章）が分析される。特に、言葉については、複数の通訳者を通じてペルシアやエジプトと交渉を試みたイタリアの君主が考察され、ラテン語や俗語にとどまらない、言葉のネットワークが描かれる。

以上のように本書では、イタリアの都市国家の事例にとどまらず、外国との交渉も含めた事例から、柔軟な外交が実証されて

いる。それは、書記局や政府による活動が特に発達していたフィレンツェやヴェネツィアの「外交モデル」によらない、常に分裂・緊張状態にあったモザイク状の半島の勢力図を反映したものである。ラッザリーニが着目した、情報や交渉、感情や言葉といったトピックは、共有された政治的実践や言葉によるコミュニケーションを捉える上で有効であろう。彼女が描くルネサンス期外交とは、政治的分裂状態においてこそ、多様な外交の主体による柔軟な活動が展開され、一六世紀に入ると外交が限定的に、形式的になっていくというものである。言い換えるならば、外交システムが柔軟に機能し得た最後の時代としてのQuattrocentoについて考察を深めることがますます期待されていると言えるだろう。

326p. Oxford University Press, 2015, £65.00

（増永菜生　一橋大学大学院社会学研究科　博士後期課程）

受贈誌

（二〇一六年七月二九日～二〇一六年八月二三日）

東アジア人文情報學研究センター　東方學資料叢刊（京都大學人文科學研究所附属東アジア人文情報學研究センター）二二
史迹と美術（史迹美術同攷会）八六六
東方學（東方學會）一三二
東北文化研究室紀要（東北大学文学研究科東北文化研究室）五七
東北文化資料叢書（東北大学大学院文学研究科東北文化研究室）九
経済研究（一橋大学経済研究所）六七―三
人文學報（京都大學人文科學研究所）一〇九
中央研究院　歴史語言研究所集刊（中央研究院歴史語言研究所）八七―二
アジア研究所所報（亜細亜大学アジア研究所）一六三
The Journal of Territorial and Maritime Studies (Northeast Asian History Foundation) 三―二
奈良文化財研究所概要（奈良文化財研究所）二〇一六
日本学刊 JAPANESE STUDIES（中国社会科学院日本研究所中華日本学会）二〇一六・三
海南史學（高知海南史学会）五四
信濃（信濃史学会）六八―八
史學雜誌（史學會）一二五―七
日本史研究（日本史研究会）六四八

編集後記

刊行が遅れ、ご心配、ご迷惑をおかけしました。お詫び申し上げます。（小野）

◆**史学研究会ホームページ・アドレス**
http://www.shigakukenkyukai.jp/index.html

二〇一六年一一月二五日印刷
二〇一六年一一月三〇日発行　定価一、二〇〇円
史林　第九九巻第六号（通巻第五二〇号）
京都市左京区吉田本町京都大学大学院文学研究科内
電話　FAX（〇七五）七五三―二七八七
発行人　史学研究会
振替京都〇一〇七〇―二―五一五五番
理事長　井谷鋼造
印刷所　京都市南区上鳥羽藪田二九　中村印刷株式会社